

熊楠が愛した庭に エコロジーの 風が吹いていた



大英博物館に関係する学者から「イギリス学問の恩人」と呼ばれている熊楠。夏の間は素裸で暮らすような奇抜な素行と、突然怒り出すような癩癩持ちの気難しい学者であった。しかし法螺話も交えた話は楽しく、多くの人に好かれていた。また熊楠自身も動物や植物などを愛する子ども好きな心優しい人間だったという。

多くの樹々が茂る大きな敷地に建つ南方邸。かしひつそりとはしていない。虫や鶏、手水鉢のかじか(蛙)の鳴き声、そして駆け回る猫や犬、そして子どもたち。広い屋敷内は相当騒がしかったという。研究をはじめると「静かにしろ」と怒ることもあったが、普段は目を細め、それらを慈しむように眺めていた。「彼にとつて、それは至福の時間だったでしょうね。顕微鏡ひとつあれば一日中飽きずにいられたようです。新種の菌ミナカテラ・ロン

ギフィラを庭木に発見したのもこの南方邸に移り住んで数ヶ月のこと。文字通り、隅から隅まで覗いていたようです。研究者にとつて新種の発見は夢のような出来事。採取した菌をナメクジから守るため、猫のチョボ六をはじめ家族全員で夜通し見張っていたようです」と語るのは、40年間熊楠を研究している中瀬喜陽さん。

熊楠の多彩な才能の根源のひとつが、優れた記憶力だといわれている。辞書を「読んだだけで覚え、寝言でその外国語を話し、ネイチャーに掲載された最初の論文「東洋の星座」も子どもの頃写した、東洋の百科事典である和漢三才図会を記憶していたからだという。

風が樹々を揺らす音を聞きながら縁側に腰掛け熊楠を思う。彼が説いた「エコロジー」なるものは、この庭にもあった。

100年目の
エコロジー



上/南方熊楠顕彰館
南方邸に遺された所蔵資料を保存・研究するための施設として2006年に南方邸に隣接するように建てられた。館内の展示パネルでは熊楠の生涯や業績などを紹介している。
住所/田辺市中屋敷町36 電話/0739-26-9909
左/南方熊楠顕彰館館長の中瀬喜陽氏。氏の後ろにあるのはミナカテラ・ロンギフィラが発見された楠の木。



南方邸/大きな屋敷は、熊楠が晩年25年間暮らした居宅。大きな敷地内には多くの草木が茂る庭をはじめ、家族が暮らした母屋や書斎、倉庫などもほぼ原型に近い形で再現されている。



南方熊楠記念館
白浜が一望できる番所山に、熊楠の業績と文献や標本類、遺品等を保存・公開することを目的として1965年に開館した記念館。熊楠ゆかりの品々が時系列に展示されている。
住所/西牟婁郡白浜町3601-1
電話/0739-42-2872

熊楠が北米から南米、そして渡英した時も肌身離さず所持していた携帯型顕微鏡。今から見れば非常に簡単な作りだが、彼の好奇心を一番近くに感じていた遺品だ。(南方熊楠記念館所蔵)



書斎の縁側近くでキノコの写生に没頭する熊楠。(南方熊楠顕彰館所蔵)

書斎内から熊楠お気に入りの庭を眺める。熊楠は明るい縁側近くでよく写生をしていた。今も心地よい風が吹くと熊楠の後姿が見えるようだ。